

令和6年度 後期 学校評価 結果と分析

気仙沼高校 全日制

1 実施日および回収率

- 生徒調査 : 12月2日～18日 回答数598人／全生徒数606人(回収率98.6%)
○保護者調査: 12月2日～18日 回答数372人／全世帯数571人(回収率65.1%)
○教職員調査: 12月2日～18日 回答数 54人／全職員数 66人(回収率81.8%)
*保護者の分母は兄弟姉妹の重複を考慮し、世帯数とした。

2 アンケートの概要

本校の教育全般にわたる教育計画および教育活動にかかる点検・評価を行うために、学校評価委員会(7月10日(水))の審議を経て、令和6年度後期学校評価を実施した。

3 分析

(1) 分析の方針

グラフは今回の学校評価と前期学校評価とを比較できるよう並べて作成した。また、各評価項目において「そう思う」と「大体そう思う」をあわせた割合の高いものまたは前期と比較して肯定的な評価の割合が増加した項目と低いものまたは肯定的な評価の割合が減少したものを、それぞれ「○肯定的評価の高い項目」、「●肯定的評価の低い項目」として、生徒・教員・保護者の別にまとめた。(数値は全て%)
なお、保護者調査の回収率は前期と比較し12.3ポイント減少している。

(2) 分析と考察

①生徒

- 「3 気仙沼高校では、挨拶やマナー・服装などの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。」

	1年	2年	3年
前期	95.1	93.0	96.2
後期	97.1	94.5	97.0

前期と比較して、統計的に有意な差があるとは断言できないが、各学年ともに肯定的評価が増加している。2年生でやや数値が低い状況ではあるが、どの学年でも大きな差がなく服装や生活習慣などについて指導が行われている結果だと考えられる。一方、保護者アンケートでの記述項目では、挨拶やマナーについて「もう少し」といった意見や、通学時の交通マナーについて市民からご意見をいただくことがあった。気高生として、周囲から期待されているという意識付けとともに、今後とも挨拶・マナー指導について継続的に声がけをしていきたい。

- 「16 進路選択や決定にあたって、保護者と話し合っている。」

	1年	2年	3年
前期	83.3	92.1	97.3
後期	85.3	93.1	99.5

前期と比較して、各学年ともに肯定的評価が微増となっている。特徴的なのは、学年が進むにつれ保護者と進路に関して話し合う割合が顕著に増加することである。進路への意識ということを考えれば当然のことではあるが、段階的な情報の提供が1年生から実施されていると考えることもできる。進路通信や学年・学級通信、三者面談等での話題提供など、家庭で生徒が話題にしやすい情報提供を今後とも継続していきたい。

●「2 気仙沼高校では、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。」

	1年	2年	3年
前期	92.2	94.1	93.5
後期	92.1	92.1	91.4

この項目は、全学年において、肯定的な評価の割合が前期と比較しやや減少した項目である。1年生については、ほぼ同数であるが、2年生、3年生では減少が見られる。全質問項目のうち、全ての学年で前期より数値が減少した唯一の項目である。授業では、主体的に学習に取り組む態度の評価項目の結果を基に、授業改善を推進し、学ぶ意欲をより一層引き出すような指導を充実させていきたい。

②保護者

○「15 お子さんは授業以外に学習時間を確保している。」

	1年	2年	3年
前期	65.4	66.9	71.2
後期	67.3	72.9	83.3

前期と比較し肯定的評価が大幅に増加した項目である。数値としては60%後半から80%前半ということで、学習時間の確保についてまだまだ改善の余地はあるが、2年生、3年生の保護者から見ると生徒の家庭学習は、前期と比較し取組状況が改善・向上したと思われる。一方、生徒の側から見た同項目の結果は、前期とそれ程変化がない。また、「16 進路等の家庭での対話」の項目にも着目すると、学年が進行するにつれ肯定的評価が増加している。このことから、進路等の家庭での対話が増えることにより「子供も学習を頑張っている」という認識の変化が見られたのではないかと考えられる。学年が進むにつれて、前期・後期とも数値が伸びていることから、家庭学習については1年生での習慣化が大切であることが改めて浮き彫りになったと言える。

○「11 「気仙沼高校通信」や「進路部通信」、「学校HP」などによって、学校の情報は適切に伝えられている。」

	1年	2年	3年
前期	88.2	88.0	94.1
後期	89.0	89.6	94.4

前期と比較し、大幅な変化はないが、全学年とも肯定的評価が増加した項目である。後期では、文化祭、台湾研修、部活動での活躍や修学旅行など前期よりも学校行事が充実しており、質問項目の媒体の他、学年通信やクラス通信の発行が増えたことが要因と考えられる。前述の進路面での話題提供と併せ、学校での活動の様子など家庭で親子が共有できる情報の提供を今後とも充実させていきたい。なお、学校HPについては更新頻度や担当部署など次年度に向けてより一層の充実を図るため改善を検討しているところである。

●「13 気仙沼高校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている。」

	1年	2年	3年
前期	64.8	51.2	72.0
後期	58.7	49.1	71.1

全質問項目の中で、肯定的評価がかなり低い項目となっている。前期調査でも特に2年生での評価の低さに言及したが、残念ながら全学年ともに前期よりさらに低い結果となってしまった。いじめ調査に関しては、クラッシー等で定期的実施し、また日々の学校生活の中でトラブル等も含め対応しているところであり、いじめ事案としての生徒指導上の問題は発生していない。取組方針の共有という観点については、今後は情報提供という意味合いも含め、生徒安全部通信などでいじめ問題に対する取組方針を周知するなど、積極的に発信していく方法が考えられる。

③教職員

- 「9 本校では生活指導に対する共通理解・協力的実践がなされている。」 前期 80.8
後期 84.9

前期と比較し4.1ポイント改善された。4ポイント以上数値が向上した項目は全質問項目のうち、「13 清掃活動への取り組み」と「15 放送・視聴覚設備の整備」と本項目の3項目だけであった。部会・教科会・学年会の充実についての項目がそれぞれ97.8%~100%であることから、様々な部分で、縦・横の連携がとれている結果だと推察することができる。また、生徒の挨拶マナー服装等の生活習慣の確立について生徒目線での評価も後期は向上していることから学年やクラスの偏りなく指導が行われている結果だと考えられる。会議等での情報共有や目線合わせはもちろんのこと、何気ない日常の情報交換を大切に、共通理解を図り今後とも指導を充実させていきたい。

- 「13 学校全体で清掃活動に取り組み、校舎は衛生的に管理されている。」 前期 83.0
後期 87.0

前述のとおり、前期と比較し4ポイント数値が改善された項目である。清掃については、長期休業前後で十分に時間をとるなど、意識的に取り組みが実施されている。また、奉仕活動に積極的に取り組む生徒も多く、本校生徒は清掃活動についても厭わず取り組める。放課後の清掃については時間的な制約もあり、細部までの清掃は難しい部分もあるが、今後とも清掃を通じて人の役に立つ喜びや奉仕的精神の醸成を意識し指導していきたい。

- 「10 本校の進路指導計画は3年間を見通したものになっている。」 前期 98.0
後期 94.1

- 「18 本校の教育活動はスクールミッションとスクールポリシーの実現に向けて適切に行われている。」

前期 100.0
後期 96.3

全項目の中で、3ポイント以上、前期と比較し肯定的評価がやや減少した項目である。両項目についてクロス集計をし、前期と比較した結果、評価の分布について大幅な変化はなかった。スクールミッションやスクールポリシーの達成については、日々の教育活動や3年間を見据えた進路指導及び学年での指導などとの関連を意識しながら、長期的な視野で教育実践を重ねていく必要がある。あらゆる取り組みについて、上位目標を意識した実践と実施後の振り返りを充実させていく必要があると考えられる。